

## 事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 こもたの推進委員会

1 事業種別	行政提案型
※行政提案型 事業テーマ	(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入) 市の魅力を発信し、広報でひろがるまちづくり
2 事業名	こもたのポータル ～子育て応援情報の一元化とまちの魅力発信ツールの拡大
3 事業を行おうとした動機・必要性	<p>子どもたちの育ちは本来、保護者だけでなく、地域全体で支えて育んでいくものです。しかし今の社会では核家族化が進み、子育て世代は地域社会から孤立しており、手助けしてくれる親戚や地域のつながりも希薄な中での子育ては不安でしんどいものとなり、少子化が急激に進んでいることで特に乳幼児期に同年代の子ども同士が遊ぶ機会も少なくなっています。こうした地域での孤独な育児環境を解決すべく、2020年に「地域で子育て応援プロジェクトこもたの(子育てをもっと楽しくの略)」を宝塚市内 9 つの子育て支援団体とともに立ちあげました。</p> <p>活動者同士の交流会やイベントを主催する中で感じることは「宝塚に住んでいても、街のことを知らない人が多い」という事です。 例えば、子育て支援拠点(子ども家庭支援センターや児童館、地域の子育てグループなど)、市内のイベント情報、宝塚市に点在する史跡、特産品など、宝塚市内には誇れるモノ(物)、コト(事)、バ(場)があるにも関わらず、残念ながら市民にはその魅力が伝わっていないようです。</p> <p>その原因の一つとして、「情報が一元化されていない」という事が挙げられます。例えば、市役所のHPなどには、さまざまな情報が掲載されていますが、担当部署の縦割りの影響などもあり、情報が見つけにくく、また事業説明などは専門用語が多いため一般市民に内容がわかりづらく、その人が必要としている情報にたどり着くことが難しいです。 また、SNSなどで手軽に情報収集がしやすくなってきてはいますが、発信形態がさまざまであるため、キーワードで検索したとしても、情報量が多すぎるがゆえに情報難民になりがちです。</p> <p>上記についての課題を解決するため、2025年度宝塚市に特化した子育て応援活動情報のプラットフォームの第一歩目として、子育て応援ポータルサイト「こもたの」を立ち上げました。</p> <p>今年度はさらなる情報の集約と整理を進め、より多くの地域団体、事業者、市役所各所との連携を強め、SNS、紙媒体、イベントなどの複数のメディアを掛け合わせ、「ここを見れば、宝塚のことがわかる」を目指します。</p>
4 事業を行う目的と期待される効果	

## 【目的】

地域団体や事業者、行政が協働で、子育てに関する活動や行政サービス、まちの魅力を Web ページ、紙媒体、SNS、ブログサイト、イベントの実施など複数のメディアを使って広報する（メディアミックス）ことにより、行政や地域団体、事業者が伝えたい情報だけでなく、事業の意図や活動者の想いを届けることができる。それにより、行政サービスや地域の子育てに関する活動などが多くの目に留まり、サービスを受ける、活動やイベントに参加するなどといった、関心惹起から行動変容に繋げる。

## 【期待される効果】

### 1 知ること・学ぶこと

「ポータルサイト」は、「情報の玄関口」であり、宝塚のことを知りたいと思う人がまずはここに訪れ、自分が知りたいと思う情報に出会うとともに、自分が知らなかった情報にも偶発的に出会う可能性を持っている。市内の各課や地域活動者が各々発信するメディアを、ポータルサイトにリンクさせることで、各メディアの弱点を補いあい、市内全域に子育て応援情報とまちの魅力を伝えることができる。

### 2 つながる

ポータルサイトで得られた情報を通じて、実際に市内のサービスや施設に足を運ぶことで、出会うのは「人」である。子育てを支え、見守ってくれている人たちと出会うことで、安心して街で暮らし、子どもを地域で育てることができる。それは長期的な視点でみると、子育てを応援してもらった世代が子どもの成長と共に、次は応援する側となり街を見守る側に回ることも期待でき、地域でのつながりの輪を広げることにもつながる。

### 3 共につくること

ポータルサイトに掲載する情報の整理や発信は「市民編集部」を組成、情報を受け手ではなく、収集発信する側として関わってもらい市民を増やすことも視野に入れたい。市内の観光やまちづくりに関すること、子育て応援活動などを取材、発信することでこれまでは知らなかった街が、「こんなにも面白い人、事にあふれている街」へと見方が変わり、「このまちで子育てをできてよかった、暮らしてよかった」と感じたり、「このまちをよりよくしたい」と、イベント企画運営など次のステップに踏み出す人を後押しする体制を作り出すこともできる。

### 5 申請までの検討経過

<p>2023年5月 「地域で子育て応援プロジェクト こもたの(子育てをもっと楽しくの略)」をより宝塚市全域で展開し、まちぐるみで子育てを応援する機運を高め、産学官民の連携を深めるために「こもたの推進委員会」を発足。市の施策や魅力を正しく知り、市政への関心や参画意欲を高め、行動を起こすことは、本団体が目指す姿である「おたがいさまのまち」につながることから、2025年に本助成金に申請し、採択された。広報課の協力の元、2025年12月には子育て応援ポータル「こもたの」を開設。宝塚市公式LINEの基本メニュー「子ども・子育て」にも表示されるようになり、認知が広がっている。しかし、情報量の不足、各部署との連携などの課題も見つかり、SNSや他のwebメディアと掛け合わせることで新たな情報発信など、さらなるチャレンジを模索したいと考えている。</p>
6 事業の内容

### ①こもたのポータルサイトの拡大

昨年度新設したポータルサイトの情報をカテゴリー分けやタグ付けをし、アクセスしやすい状態へと整備する。また、地域創生を支援する無料の告知サービス「マワリミチ」や、文章や音声、動画を投稿し、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォーム「NOTE」と連携することで、市内の子育てに関する情報やお出かけスポット、市役所の各課が発信している note 記事と連動させ、より市民目線で一覧化。下記②に記載の紙媒体「こもたのだより」のデジタル版（PDF）及び記事化したコンテンツや下記③SNS を連携して取材記事も前年度に引き続き掲載する、紙媒体の弱点である、どこに置いているかが分かりにくい、在庫切れや配布数の制限があるなどを補う。

### ②紙媒体「こもたのだより」の発行

2023 年度から当団体では子育て情報シェアマガジン「こもたのだより」として、季刊誌を自主発行しており、今年度はより宝塚市や市内事業者や地域団体の紹介など、取材先を市内全域に広げて内容も充実させたいと考えている。

発行部数（予定）：5,000 枚 発行月（予定）：年間 1 回

配架場所：市内全域（子ども家庭支援センター、公立保育園幼稚園、各児童館、コープ神戸の 10 店舗は昨年度設置実績あり）

市民編集部を組成し、テーマ設定から取材先の選定など企画から参画してもらい、宝塚市内の子育て応援施設や活動者、事業の紹介、子ども連れでも入りやすいお店やお出かけスポット、などを取材し、紙面で紹介する。（上記①に記載の NOTE にもレポートやコラム記事として掲載）取材の様子は SNS でもリアルタイムで紹介する。

### ③SNS での発信

こもたのプロジェクトの既存アカウントを活用し、地域活動紹介、市内のおすすめスポット、各種イベント情報などを発信。各種イベント情報は公募フォームを作成し、広く募集し、掲載する。（市の情報は、担当課と連携。社会福祉協議会にも協力への依頼をしており、地域のボランティア団体への周知をお手伝いいただく。）

上記①ポータルサイト「こもたの」や各事業主体のウェブなどへ連動できる導線をつくり、投稿予定。

### ④イベントの実施

産学官民が連携して、子育て応援イベントを実施。市内の子育て応援活動や宝塚市の子育てに関連する事業を知ってもらう機会とする。上記①ポータル「こもたの」や③SNS などとも連動し、イベントの立ち上げから当日までを追うことで、イベントに来られない人にも広く本事業のことを知ってもらえるようにする。

「こもたのひろば～あつまれ！0・1・2才さん！～」  
地域と繋がりが薄い乳幼児期に地域の子育て情報に出会える機会として、

<p>親子遊びやハイハイレースなどのおやこで参加できるイベントを実施予定。7月には中高生ボランティアを募り、企画運営を共に担ってもらおう。 年5回（平日午前中を予定） 場所：プレミア宝塚 参加想定人数：700名</p> <p>2026年12月19日（土）「こもたのカーニバル」 過去5回実施している、市内最大級の子育て応援イベント。ワークショップやミニステージなどを実施予定。地域活動団体、市内事業者など20団体程度に出店協力を募る予定。 場所：宝塚市立文化芸術センター 参加想定人数：1,500名</p>
<p>7 市の担当課との事前協議の経過（事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入）</p>
<p>【第1回】 4月7日 広報課へ事前相談。事業内容が行政提案型事業に沿った内容であるのか確認を行った。事業の方向性はよいが、事業内容についてより具体を明らかにすること、提案書の書き方への注意事項などのアドバイスを受けた。</p> <p>【第2回】 4月10日 第1回の相談を踏まえ、申請書記載の内容について相談。市の広報における課題をどういった取り組み・仕組みで解決していくのか、持続可能かを示すようアドバイスを受けた。</p> <p>【第3回】 4月28日 広報課から申請書記載内容について最終チェックしていただき、記載内容の一部修正するようアドバイスを受けた。</p>
<p>8 実施する安全対策</p>
<p><b>イベント会場準備・環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会場の広さと動線を事前に確認し、参加者が密集しないよう十分なスペースを確保する（目安：4㎡×人数以上）</li> </ul> <p><b>スタッフ体制・役割分担</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● イベント責任者を明確にし、危機発生時の指揮命令系統を整備する。</li> <li>● 緊急連絡体制（警察・消防・市等）を事前に確認し、スタッフ間で情報共有する。</li> </ul> <p><b>事故・トラブル発生時の対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 軽度の負傷は本部で応急処置、重傷時は速やかに消防へ連絡し医療機関へ搬送。</li> </ul> <p><b>個人ウェブサイトやタブロイドにおける著作権等の処理について</b> 上記①～③は、取材対象者に対して事前打ち合わせや取材依頼書を提出し、合意を得たうえで取材及び記事を掲載する。また取材で得た個人情報などは当団体の事務所の施錠可能な場所に管理保管することとする。</p>